



◀写真1 満員のハクチョウ池▶

ハクチョウ池に飛来する 野生オオハクチョウについて

鳥 潟 輝 男

当園の水禽池が大改修を終えて13年目になります。それまで、冬期間は入園者の目に触れることもなく、毎日毎日水を割って水面を確保していましたが、1993年4月、自然流入水を利用した6,000㎡の池に、15㎡の中島と100㎡の不凍水面を設けた「ハクチョウ池」として生まれ変わりました。

夏は飼育下のオオハクチョウや他の水鳥を放し飼いで楽しんでもらい、冬には野生オオハクチョウに来てもらいたいと考えました。

☆飛来数の変化

オープンした年には1羽も飛来しませんでした。翌1994年10月19日午後、野生オオハクチョウの一群5羽(幼鳥1羽を含む)の初飛来を確認しました。その後、野生のオオハクチョウは、日に日に増減を繰り返しながら増えていき、3月には100羽程度にまでなりました。

飛来数のカウントは、基本的には15~16時の間に実施していますが、カウント後や日没後の飛来もかなりあるようで、500羽に近いオオハクチョウが翼を休めていると思われます。しかし、翌日早朝には飛んでいってしまうため、実際の正確な数はわかっていません。

飛来数は年々増加して、2001年3月には393

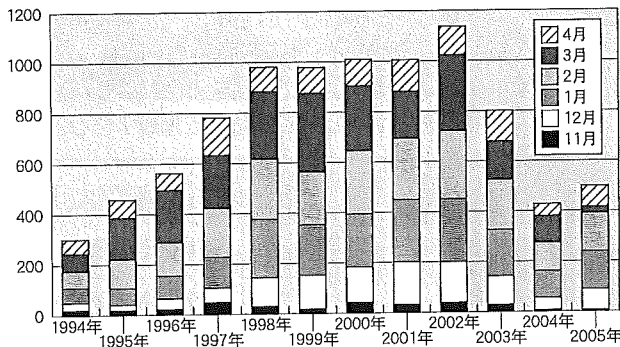


図1 飛来数の変化

羽を記録しています。図1に、月ごとの平均飛来数の移り変わりを示してあります。これからもわかるように、3月に飛来数が最大になります。これは、ここで越冬する個体群に、本州から飛来する個体加わるためと思われ、越冬地であるばかりではなく中継地にもなっていると考えられます。これは、後述するように足環の付いたオオハクチョウの目視情報からも確認されています。

このような飛来数の増加に伴ない、飼育下個体の採食量を確保するため給餌量も徐々に増え、2000年および2001年の2~3月には、1日当たり200kgにもなりました。

飛来数の増加→給餌量の増大という悪循環に

より、いつでも餌が採れることから逆に、5月になっても飛去しない野生オオハクチョウがはじめてしまいました。

2003年、国内の鳥インフルエンザが発生を機に、2004年12月より給餌量を40kgまで減らしてみたところ、2006年2月まで飛来数の変化は見られなかったものが、3月には一気に30羽程度まで減少しました。

☆足環付けについて

野生オオハクチョウの飛来数の増加に伴ない、ハクチョウ池の繁殖ケージに飛び込んで出られなくなって保護されるオオハクチョウも増えました。このうち、野生復帰可能な個体には1985年から環境省の足環を付けて放してきました(写真2)。その数はこれまでに103羽となりますが、このうち8羽は動物園外で保護されたものです。

この103羽は幼鳥が40羽、成鳥が63羽で、4割近くがまだ灰色の子どもたちです。飛来する幼鳥の割合はせいぜい2割程度ですから、保護される幼鳥の比率の高いことがわかります。狭いハクチョウ池に下りるには、飛行技術が未熟なのかもしれません。

足環をつけたオオハクチョウが富山県や福島県猪苗代湖、阿武隈川等で確認されています。例えば2003年2月に富山県「ねいの里」自然博物館で、1999年1月～4月に当園で足環をつけた7羽のうちの1羽が確認されています。近いところでは、厚岸湖でも確認されているので、ハクチョウ池と厚岸湖を行ったりきたりしているものもいるようです。

こうした足環は、山階鳥類研究所(千葉県我孫子市)が一括管理しているので、番号さえ読めればいつ、誰がどこでつけたものかわかるのです。

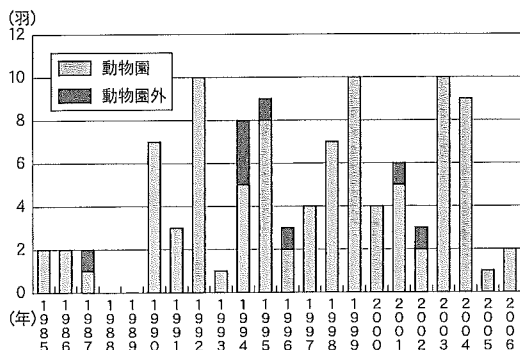


図2 これまでに足環をつけた数

また、2000年12月18日に放鳥した個体が2003年4月9日に動物園で再保護されています。2003年に足環をつけたオオハクチョウは、2006年1月27日にメスと幼鳥3羽を伴った家族群として飛来しています。

☆おわりに

時折、新釧路川や阿寒川の河口で翼を休めていたり、阿寒のタンチョウ給餌場で餌を食べていたりする姿を見かけることがありますが、市内にはこれほどたくさんのオオハクチョウが集る飛来地は他にありません。

これからもハクチョウ池と不凍水面を活用しながら、適正な給餌を維持し、野生本来の生態を失うことなく、入園者に対しては親水性の施設を利用した野生動物へ理解を深めてほしいと思っています。

本年3月に飛来数が減少した際、その一部は動物園近くの牧草地に下りて、新芽や根を採食している姿が見られました。例年、こうした牧草地で数羽を見かけることはあったものの、このように100羽を越す数は初めてのことで、もしかしたら給餌量を減らしたことによって、このような行動をとったのかもしれない。

釧路湿原を控えた当園ならではのダイナミックな野生動物とのかかわりを、これからも大切にしながら、釧路の地の利を生かした展示を行っていきたいと思っています。

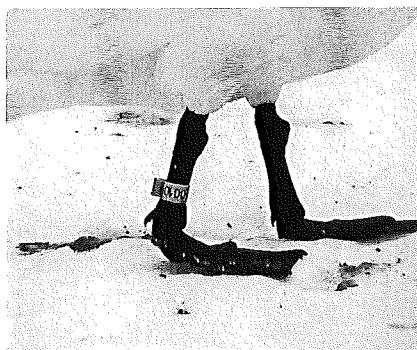


写真2 足環をつけたオオハクチョウ